

6日[火] \sim 7月23日[日 6月11日(日)、12日(月)、19日(月)、26日(月) 【入館料】一般200(160)円/小中学生100(80)円※()内は20名以上の団体料金

谷区立松濤美術館

〒150渋谷区松濤2-14-14 井の頭線「神泉駅」下車徒歩5分「渋谷駅」下車徒歩15分

狩野一信筆 五百羅漢図(増上寺蔵)



(ス停東大前 (幡ヶ谷折返し所行) Bunkamura 東急本店 ★印=案内板設置場所

-変容する神仏たち― 近世宗教美術の世界

三百年近く続いた近世 (江戸時代) という時 代は、檀家制度が庶民の間に定着し、日本的な 信仰の形態である神仏習合が完成するなど、宗 教が庶民生活にもっとも深く浸透し、影響を持 った時代です。この時代の宗教美術は従来とも すると軽視されがちであり、これまでまとまっ て展覧される機会に恵まれませんでしたが、禅 の改革者白隠の気魄あふれる書画や、生涯を旅 に過ごした造仏聖円空や木喰の残した素朴な仏 像をはじめとして、有名無名の様々な作家によ って、個性豊かな作品群が生み出されています。 そこには手先の技術だけでは表現できない純粋 で高貴な宗教的情熱と、それに寄せた庶民の素 朴な共感を読み取ることができるでしょう。ま た、中世以前の宗教美術の堅苦しいイメージを くつがえすような斬新で表情豊かな作品も制作 されており、この時期の宗教美術に彩りを添え ています。

本展では白隠や円空らの作品に加え、若冲、 大雅、蕭白、文晁、北斎といった著名絵師の精 作から、細密な文字絵で敬虔な仏画を描き続け た加藤信清の作品(表写真)、さらに大津絵、地 獄絵などの庶民の信仰に基づく作例までを含む 90点あまりを幅広く展示して、近世宗教美術の 特質を探ります。



曾我蕭白筆 鍾馗図(個人蔵)

【講演会】 6月17日(土)午後2時~ 「変容する神仏たち 江戸時代の宗教美術」 講師 辻惟雄(国際日本文化研究センター教授)

【美術映画会】(ビデオ) 6月10日(土)午後2時~3時10分 「京都の魅力 美のすべて 洛中、東山」 7月8日(土)午後2時~3時10分 「京都の魅力 美のすべて 洛北、洛西」

【美術相談】 6月24日(土)午後2時~4時 講師 西嶋俊親(洋画家)、大利屋厳(水彩画家) 7月22日(土)午後2時~4時 講師 佐藤善勇(洋画家)、松島靖(水彩画家)



木喰行道作 葬頭河婆像(寿竜院蔵)